

3 科目概要

1年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
現代文明論Ⅰ/ 新村 直子	「現代文明を考える」というテーマで、人生や歴史・世界について考える。現代文明とそれがもたらした様々な問題について、その実態を知り、現代に生きる人間として、何をなすべきかを考える。講義は、「見学の精神と現代文明論」「現代文明の光と影」「文明の未来を考える」の枠組みで構成される。講義後に受講用紙を記入すると共に、すべての講義後に、「現代文明を考える」というテーマでサブテーマをしばり課題レポートにまとめる。
現代文明論Ⅱ/ 新村 直子	「生活を科学する」というテーマで一社会人として生活のもたらす様々な課題について考え、地球人として未来に向けて何をなすべきか自らの思想を培う。講義は、「生活を科学する」「生活を豊かに」「生活と社会」「生活と科学」「未来に向けて」の枠組みで構成される。講義後に受講用紙を記入すると共に、すべての講義後に、「生活を科学する」というテーマにもとづき、各自、サブテーマをしばり課題レポートにまとめる。
文化人類学/ 小池 佑二	地球上の多くの人間の社会・文化に関して調査・研究し、人類文化に普遍的な法則を見出そうと努力してきた。その調査・研究の過程で、人間の文化の多様性ととも、一見説明困難な問題に突きあたっている。そのような多様性や「謎」についての解釈を通じて、「文化とは何か」、「人間とは何か」文化人類学の著名な研究者の業績を紹介しながら系統的な学習を目指す。
地域環境と科学 ／内田 晴久	人類の様々な環境問題を取り上げ、人間および生命と地球環境との関係について理解を深め、我々が理想とする生活の在り方や行動のあるべき姿を実感し、己の言葉で表現し、自分の考えに基づいて他者に伝えることができるようになることを目指す。
芸術と表現/ 菅野 孝彦	現代世界を生きる我々は、好むと好まざるとを得ず人々との様々な交わりの中で生ない自分とは何者かということの確認を視野に入れることが必要。哲学の歴史は、自分とは何者かという問いを、哲学以外の領域にも見出されることに注目し、自分とは何者かという問題を芸術作品を手がかりとしつつ考え、各人の知見を広め内省を深める。
コミュニケーションと対人関係 ／有沢 孝治	円滑な対人関係を形成していくためのコミュニケーションの基礎について学びながら、カウンセリングを基盤とした援助的な関わり方を演習を交えて学習する。
発達心理学/ 具 英姫	人間が生から死までの各発達段階に直面する課題と発達内容について生涯発達の観点から概説する。また、看護師を目指す人々にとって職業的に必要な人間理解と様々な人との関係作りの基礎となる学習内容である。理論の学習だけでなく、日常生活や臨床現場に生かせるような授業を目指す。
経済のしくみ/ 井上 孝	科目の目的は、経済の仕組みと経済学の考え方を知ることにある。それを達成するために、三つの部分に関して進めていく。第一には、人間はなぜ経済活動を行なうのか、第二に、経済活動の主人公たち（これらを経済主体とよぶ）はどんな動機で、経済制度を作り上げているのか。経済学は、どんな考え方を以て、説明するのか。第三に、いまわれわれが直面している問題の中で、本科目の受講者に関心があると思われるテーマはどのように論じら

	れるのか。高齢化社会における医療や福祉の問題を例にし、毎回配布するプリントをもとに進めていく。
ことばと表現／ 緒川 直人	医療・看護・福祉や教育などにおいて報告書やレポート(論文)の執筆が重要である。職業人になるための必須の素養であるレポートを書くための基本的な技法と心構えを学び、表現力の向上を目指す。
国際理解とデン マーク看護研修 ／中谷 啓子	諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。実際にデンマークを訪問し、主にデンマークの社会・文化・福祉、および医療や看護の実際に触れ、これからの社会や医療・看護のあり方、自己のあり方について考えを深める。
情報検索と活用 ／津田 道雄	現代社会におけるさまざまな情報の中から必要なものを的確に効率よく見つけ出し活用する能力が求められている。看護学・生命科学系の文献データベース検索を実習しながら、将来医療現場で役立つ情報検索法、情報の整理・活用法を学習する。
情報の処理と分 析／須藤 真由美	医療統計学の専門知識を持ち、医療データをコンピュータを利用して、客観的科学的に分析できることを目的とする。情報の的確な収集・整理の方法を理解し、表計算ソフトを利用して集計し、図や表などのさまざまな表現方法を学ぶ。
英語：スピーキン グ／Jon Mudry	This basic level speaking class will focus primarily on learning to interact with classmates in English about various topics. There will be a small amount of listening and writing activities to facilitate more interest and supportive vocabulary and grammar.
英語：ライティン グ／ Thomas Hanson	This course will introduce students to paragraph writing. It will focus on creating short, well-written paragraphs leading to composition construction. Students will learn and practice the basic mechanics, involved in writing paragraphs and essays. Lessons will encourage accuracy and fluency through both structured activities and time for guided free writing. In order to pass the course, students must demonstrate their ability to handle these basic functions.
英語：リスニング ／飯沼 好永	病室で使われる基本的な英会話や日常生活の様々な場面における英会話を聞きながら、リスニング力並びに英語の表現を学習していく。またリスニングのスキルとして、全体を聞き取るもの、細かな情報を聞き取るもの、等の聞く目的にあったスキルを上手に使い分けることができる訓練も同時に行っていく。
英語：リーディン グ／中田 明子	米国の看護師による文献を読解し、米国の看護教育・医療現場に触れる。療情報・医療文献の読解・表現能力を身につける。単語一つ一つにとらわれることなく、内容の要点をつかめるよう指導を行う。英文の書かれている順に読解していくことに慣れるために「スラッシュ・リーディング」という方法(区切りごとに独立した意味をとる)を用いて学習を進める。
フィットネス理 論・実習／ 西垣 景太	生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を、理論と実習を通して身につける。「こころとからだの健康」を維持・増進するための、体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を学習し、運動・スポーツの科学的知見に基づいた、エアロビクス運動(有酸素運動)・筋力アップ運動・コンディショニング運動を実践する。

スポーツ理論・実習／西垣 景太	スポーツの理論と合理的な実践方法を学習し、その良さを自ら生活に取り入れることができる能力を身に付け、生涯を通じての健康づくりと実践の方法を学ぶ。「卓球」「バレーボール」を授業教材として取り上げる。
現代医療論／飛田 美穂	医療チームの一員として質の高い看護を提供することの重要性を認識するために、現場の看護師をはじめ医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション技師、臨床工学技師あるいはメディカル ソーシャルワーカーなど他職種の講師によりそれぞれの専門性につき学ぶ。そして、各専門職の人たちがどの様に看護職と連携し、また看護師に期待されるものは何かにつき理解を深める。
疫学と生活環境／松木 秀明	疫学・環境保健を中心に予防医学、保健統計、疫学、環境保健、母子保健、精神保健、地域保健、学校保健、産業保健、国際保健協力を含めて総合的に学習する。
人体の構造／泉 義雄	<p>人体の発生・構造を学ぶことを通して人体とはなにか、人体についてのイメージを作ることを目的に其々の臓器についてはスケッチをふんだんに取り入れて学習する。人体の解剖学と生理学は医学や看護学を学習する本質的な部分であり、看護実践の基礎となる。ここの内容が十分に把握できないと、以後の全ての授業が理解できにくくなる。</p> <p>この科目は学習内容が多く、覚えなければならないことが多い。重要項目を中心に網羅的な系統講義を行う。</p>
人体の機能／飛田 美穂	人体の各器官の働きにつき学習することにより、植物性功能・動物性功能の相互作用を理解し、からだの恒常性がどのようにして維持されているのかにつき理解する。言い換えれば、人体の恒常性維持機構につき学ぶ科目である。
代謝と栄養／飛田 美穂	各種細胞内の小器官とその働き、生命維持にとって重要な栄養素の役割、栄養素の消化吸収に関与する酵素やホルモン・自律神経の関与、ライフステージや病態に応じた栄養素の必要量などにつき理解する。
感染と防御／飛田 美穂	病原微生物の種類、感染症の成立の条件、感染症の主症状・治療、滅菌と消毒、性感染症・院内感染症・母子感染症および感染症予防法に基づくⅠ～Ⅴ類疾患につき学ぶ。
臨床病態学Ⅰ／飛田 美穂	疾病の成り立ちと回復の促進につき学ぶ。最初に種々の疾病にみられる基本病変につき学習した後に、水電解質異常・尿の生成と排泄障害、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患につき理解する。
臨床病態学Ⅱ／泉 義雄	<p>人体の「個体」という概念を病態学の視点でとらえ、病気の原因や病気の形、病態、機能、代謝の変化についての環境への適応と関連付けて理解し、疾病の成り立ちの概要と治療予防について学習する。</p> <p>① 内分泌代謝機能の障害と治療 ② 統合機能の障害と治療（精神機能と脳神経系） ③ 血液疾患とアレルギー・膠原病など</p>
看護学概論／熊谷 智子	人間の対象である行動や健康を理解するための知識・理論を学ぶと共に様々な人々と援助関係を形成するための科学的思考に基づく看護の方法を学ぶ。看護の実践は、人間の生老病死など複雑な問題において看護者としての哲学・倫理観が求められる。看護職を目指す学生が、看護・人間に対する興味と関心を示し、看護学全体の動機づけを図ることを目的とする。
看護アセスメントⅠ／吉田 礼子	「その人にあった看護」を行うために、はじめに行うのがアセスメントである。その中で、対象の心身の状態を把握する基本として、バイタルサインの観察技術を含めフィジカルアセスメントについて学習する。アセスメント

	は、単に情報を集めることではなく、情報に対する判断が重要となる。そのため、人体の構造と機能、心理学、など人間理解に必要な知識を活用することが大切なので、それらを復習しながら学習を進める。
看護アセスメントⅡ／吉田 礼子	対象のニーズに応じた看護を実践するための方法として、問題解決思考のプロセスである看護過程について学ぶ。看護過程展開には、これまでに学習してきた知識や技術を活用し、柔軟で多面的に思考を働かせることが重要であることから、クリティカルシンキングについてもあわせて学習する。また、分析的見方に偏らず、全体的な見方の重要性についても学ぶ。
看護の基本技術Ⅰ／秋元 とし子	看護実践の基礎として、看護技術のとらえ方を考えるとともに基本的技術としてコミュニケーションおよび安全を守る技術について学習する。 ①アートとサイエンスの融合としての看護技術について ②コミュニケーションとカウンセリング ③感染防止の技術
生活過程を整える看護技術Ⅰ／林 真理子	その人の生活を支えていく生活の意義、生活環境、姿勢と動作、活動・休息・睡眠、電法、衣生活などについて基礎的な技術を理論と実践を通して学ぶ。単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習する。
生活過程を整える看護技術Ⅱ／林 真理子	生活過程を整える看護技術Ⅰにひき続き、その人が健康でその人らしく生きるために必要としている身体の清潔、栄養と食生活、排泄など生活過程を整えるための基礎的な技術を既習の知識と技術を活用し、理論と実践を統合しながら学習する。単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習する。
精神看護学概論／瀧澤 直子	本科目では、ライフサイクルと精神保健の視点で、我々の日常生活に関心を向けながら、生活の場における精神的不調について学習し、精神看護学の基本概念を学習する。
成人看護学概論／丹澤 洋子	ライフサイクルの中の成人期にある人に焦点を当て、対象を総合的・全人的に捉えあらゆる健康レベルに対しての健康問題を整え、生活の営みを可能な限り豊かにしていくこと、さらに健やかな老年期を準備することへの看護について学習する。成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と健康、及び成人を取り巻く社会・環境保健対策について概観し、成人看護の役割を達成するために活用可能な理論を理解する。
老年看護学概論／横島 啓子	ライフサイクルの最終段階である老年期の特徴を理解すると共に、加齢に伴う心身社会的機能の変化と特徴から個々の高齢者の理解を深め、家族形態の変化と社会システムの変化や高齢者の権利擁護等、高齢者を取り巻く社会の視点から看護の果たす役割を学習する。
小児看護学概論／今瀬 繁子	乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもと家族の健康について理解し、社会の中で安全で幸せな生活が送れるような援助について学習する。 ①子どもの特徴・子どもと家族②小児と親の権利と看護倫理③事故と子ども・家族の安全教育④小児各期の子どもと家族への援助⑤思春期の成長・発達と生活援助⑥乳幼児の生活援助技術

基礎看護学実習 I／秋元 とし子	実習目的は、患者と関わり対象理解をすると共に、患者—看護師の関わりの場に共に参加し、看護について考える。具体的には①患者がどのような体験をしているか、②看護がどのように実践されているかに関心をもてる。③看護師の患者への気遣いや配慮に気づく④患者の入院環境を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることに気づく。⑤実習を通して自分についての理解を深め、今後の成長の方向性をえがく。
---------------------	---

2年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
看護と関係法規 ／熊谷 智子	人々の健康を護るためのサービス提供機関とそれに従事する職種の役割・機能に関する基本的な規定について法律をとおして学習する。また、看護職が免許を有することで担わなければならない義務と責任について考える機会とする。患者の権利と医療過誤については、例をもとに討議をとおして法的責任の理解を深める。さらに予防衛生法や環境衛生法規など看護践においてどのように関連するかなども学習する。
社会福祉論 ／岩田 香織	病気や障害など何らかの健康上・生活上の問題を抱える人々への援助においては、病気・障害の回復を目指すのみでなく個人の生活を捉え地域社会で自立生活を営むことができるための支援が求められる。本講義においては法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学習する。
臨床薬理学/ 泉 義雄	患者に安全に薬物の投与ができるために薬理学の知識を確実に学ぶことが重要となる。臨床における薬物療法の視点から人における薬物の体内動態や有害反応などを看護師に要求される基礎知識として薬効と個人差、各種薬剤の作用と薬物相互作用と障害、薬物の管理を網羅的に解説する。
臨床病態学Ⅲ ／高沢 研丞	治療法のひとつである手術療法を取り上げ、それらを取り巻くさまざまな関連領域についての理解を深める。科療法の代表的疾患を取り上げ、周手術期の管理と医学的諸問題について学習する。1. 救急医療と主要救急患者の病態と治療。2. 手術と麻酔について3. 術式による生体機能の変化と主要な術後合併症の発生メカニズム、要因と患者への影響、予防的ケアについて。4. 代表的な腫瘍の外科的治療とそれらに関連する治療。5. 内視鏡下での手術の特徴・適応疾患・手術侵襲と回復過程。6. 日帰り手術の定義・適応疾患および条件、回復過程と退院基準。
臨床病態学Ⅳ/ 泉 義雄	人間の「個体」という概念を病態学の視点でとらえ、病気の原因や病態、機能や代謝の変化について環境への適応と関連づけて理解し、疾病の成り立ちの概要と治療・予防について学習する。 この科目では①出生前の疾患と治療、性・生殖機能の障害（産婦人科疾患）②小児の疾患と治療③整形外科的疾患と治療④感覚器官の障害と治療（眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚疾患、歯科口腔外科疾患）について医学部の非常勤講師を含めてより専門的に理解を深める。
看護過程演習/ 吉田 礼子	看護過程をはじめとする既習の学習を活用して、論理的に思考を進め問題解決を図る力を養う。すでに講義で学んでいる看護過程を活用して、青年期にある白血病の事例について、アセスメント、問題の明確化、具体策の立案、実施と記録、評価・修正までの一連のプロセスを体験し考えの進め方を学ぶ。情報収集の時から看護は始まっていることを意識し、科学的理解に留まらず、人間的・共感的理解につとめる。
看護の基本技術 Ⅲ／秋元 とし子	健康の段階やライフサイクルにかかわらず、検査・治療時に共通する技術である①診療過程における看護師の役割、②検査と看護の方法、③薬物療法と看護、④診察時の看護の方法について理論および演習を通して学習する。

健康の段階と看護基礎技術／ 蔵本 文乃	急性の経過をたどる患者、慢性の経過をたどる患者、終末期にある患者、さらにこれらに共通するリハビリテーションを必要とする患者に分けて、各健康段階の概念と治療の特徴、患者のニーズについて学習する。さらに健康上の問題を解決する看護の機能や役割を認識し、援助に必要な知識、技術、態度を習得する。
看護の理論／ 秋元 とし子	科学的な看護の実践を追求するために必要な看護理論とその活用について学習する。まず、①看護理論の重要性、②看護理論の変遷について学び、③すぐれた看護実践が、どのように理論に基づいて実践されているのか、またどのように活用できるのかについてナイチンゲール、ペプロー、ウィーデンバック、キング、トラベルビー、オレム、マーサ・ロジャーズ、マーガレット・ニューマンをとりあげ、理解を深める。
リスクマネジメント／ 熊谷 智子	医療安全対策の動向及び、医療従事者としての基本的な倫理を踏まえて、医療安全の組織的取り組みや医療の質を保証することの意義と予防について事例をもとに学習する。医療事故は日常的に発生する可能性があることを認識し、質の高い医療・看護を提供するために医療の現場において、事故防止に最善を尽くさなければならないことを理解する。
看護研究の基礎／ 今瀬 繁子	看護研究の目的と意義、研究課題の設定、研究過程の概要を説明し実際に看護研究が遂行できるための理論を学習する。1, 研究とは何か2, 看護における研究の役割3, 研究過程の概観4, 看護研究における倫理的配慮5, 看護研究と文献検索方法
在宅看護概論／ 中田 芳子	在宅看護では、地域で生活しながら療養する人と家族の両者が対象となる。そのため、療養者や家族の療養生活が、より充実するような支援方法について学習しながら、看護の役割を理解する。①在宅看護の位置づけと役割②在宅看護が求められる社会的背景③施設内看護と在宅看護の相違と特徴④家族の理解と健康支援⑤継続看護の必要性など
在宅看護論Ⅰ／ 新村 直子	在宅での療養者は年齢、疾患や病状及び生活習慣、家族背景、家庭環境など個別性に富んでいる。そのため療養者や家族の希望や状況に合わせて提供する必要がある。在宅看護論Ⅰでは、基礎看護学などで学習した内容を基に、在宅における日常生活援助の演習を体験して、創意工夫や経済性を考慮した援助方法について理解を深める。
在宅看護論Ⅱ／ 中田 芳子	在宅看護は、家庭という場に訪問して行なわれるため、コミュニケーション技術は信頼関係を築いていく上で重要となる。そこで、在宅療養者と家族及び訪問看護師とのコミュニケーションについて学習する。また、療養者の疾患や病態に応じた看護、在宅での医療管理を必要とする人の看護についても学習する。①訪問時のコミュニケーションとマナー②在宅療養者の疾患や病態に応じた看護③在宅での医療管理を必要とする人の指導や看護など
精神臨床看護Ⅰ／ 吉野 由美子	精神看護においては、目に見えにくい現象を把握していく必要がある。精神の健康問題をもつ人への援助の必要性を考えるために、生活のしづらさを体験している状況への参与の手だてや、患者－看護師関係を基盤とした援助技術と自己活用の仕方を学習する。
精神臨床看護Ⅱ／ 瀧澤 直子	精神臨床看護の対象は、疾病と障害を併せ持つことで何らかの生活上の問題を抱える人であり、また健康な側面を持つ人である。生活の主体者はあくまでも精神障がい者本人であると捉え、自己決定の原則に立って援助を考えてみる。

成人臨床看護Ⅰ ／丹澤 洋子	手術は、生体に対して意図的に損傷を加えるものであり、患者は手術という侵襲を受けたことで、生命の危機や心身の苦痛状態にさらされる。周手術期(術前・術中・術後)に患者が体験するであろう心身の変化や様々な問題を予測し、順調な経過がたどれるよう、周手術期における患者の看護に必要な基礎知識と技術について学習する。
成人臨床看護Ⅱ ／中谷 啓子	成人看護学概論で学習した知識・理論を基盤とし、さらに、慢性的な疾患や障害を抱えながらも、それを受容し人生の QOL 向上を目指し生活を再構築しようとする成人期の対象について理解を深め、その対象への看護について学ぶ。また、この学習過程をとおり、看護専門職者としての自己の在り方をみつめ、看護観を養う。
成人臨床看護Ⅲ ／中谷 啓子	成人看護学概論で学習した知識・理論を基盤とし、さらに、慢性的な疾患を抱え疾病コントロールのため自己管理を必要とする成人期の対象について理解を深め、その対象への看護について学ぶ。また、この学習過程をとおり、成人期にある人を対象とした教育指導に必要な看護師としての能力について考えを深め、看護観を養う。
成人臨床看護Ⅳ ／阿部 ケエ子	成人看護学概論、成人臨床看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識・技術を総合的に活用して、周手術期患者の健康問題を明確化するプロセスを学ぶ。また、計画に基づき看護援助を実施し、周手術期各期の特徴的な状況に対応できる問題解決能力、応用能力の向上をめざす。
老年臨床看護Ⅰ ／飯室 淳子	高齢者看護では、高齢者に本来備わっている防衛力・予備力・適応力・回復力が脅かされないよう疾病予防に働きかける必要がある。さらに高齢者が入院となった場合は、治療環境への適応を促し、苦痛緩和を図り、疾病からの回復過程など状況に応じた援助を家族と共に支援していく役割がある。そこで、高齢者の加齢に伴う変化の特徴を踏まえて、高齢者が健康を維持しながら、その人らしく生活できるように支援していく技法について学ぶ。
老年臨床看護Ⅱ ／後藤 雪絵	急速に進行する高齢社会において、高齢者看護の重要性と役割が増してきている。高齢者看護の場も、病院だけではなく介護老人福祉施設、介護老人保健施設など多様であり、高齢者の生活の場に合わせた支援の形が求められている。そこで本科目では、様々な場・社会資源の制度上の基本となる考え方、様々な場を利用している高齢者の特性を知り、それぞれの場における看護の役割と機能について学習する。
小児看護学概論 ／今瀬 繁子	新生児期・乳幼児期・学童期・思春期それぞれの発達課題と健康問題について学習する。①乳幼児期の成長・発達と生活援助②学童期の子どもの成長・発達と生活援助③思春期の成長・発達と生活援助④小児期の健康の問題とその対策⑤小児と親の権利と看護倫理
小児臨床看護Ⅰ ／橋田 節子	小児各期の特徴と主な疾患や症状、治療をふまえて、病気や障害を持つ子どもについて学習する。また、治療や症状、それらによる制限からの苦痛を少なくできるような看護の方法について、事例および看護過程の展開を通して学習する。
小児臨床看護Ⅱ ／今瀬 繁子	健康レベルに応じた小児の看護と健康を傷害された小児とその家族についての看護方法について学習する。①健康レベル各期における小児とその家族の看護について学習する。②母子相互のニーズを把握し、家族参加の必要性を認識しながら健康を傷害された小児とその家族について、個別的な看護の方法について学習する。

性・生殖と看護／ 望月 好子	この科目では、女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとって健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。その中で女性が健康を獲得し、豊かな母性を成長させていくプロセスや、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて、また、母（父）と子との関係性や家族形成期における母性の健康問題についてなど、新しい家族の誕生期にある人々の健康を支えるための基礎的な知識を学ぶ。
母性臨床看護Ⅰ ／小川 景子	周産期（周生期）にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康的な生活が送れるよう援助するための基礎的な知識を学習する。①妊婦の健康生活への援助②分娩準備教育と分娩各期の看護③褥婦の健康生活への援助
母性臨床看護Ⅱ ／望月 好子	この科目では、母性看護（特に周産期における援助）に必要な知識と技術を習得することを目的とする。特に、新生児の生理的な特徴とその看護を理解する。また、事例による看護展開および保健指導案等の立案を通して、周産期（および周生期）にある対象への看護の理解を深め、母性看護学実習の中で活用できるようにする。
基礎看護学実習 Ⅱ／林 真理子	既習の知識を活用し、臨床の場で患者とかかわり対象を理解し、その人が必要としている生活過程を整える看護を、看護過程のプロセスにそって展開すると共に、看護観を深めることができる。

3年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
臨床病態学特論 ／飛田 美穂	人は、疾病に罹患すると単独の器官系の障害にとどまらず複合した問題が発生しやすい。人体の構造と機能及び臨床病態学Ⅰ～Ⅳで学んだ学習内容について、臨地実習開始にむけて、対象となる患者をより臨床的に理解するための知識を再確認する機会とする。また、各看護学領域の学習と統合することで、看護師国家試験に向けての知識の統合とする。
リーダーシップ 論／熊谷 智子	リーダーシップ論は、集団・組織・リーダーシップと「私」の関係からみていくことが重要になる。集団やリーダーシップの定義は、論文の数だけ多くあるといわれている。定義の歴史的変遷を踏まえ、一般的に支持されているものを紹介後、組織の一員として看護のリーダーシップ、保健・医療・福祉関係職との調整のためのマネジメントについて学習する。
看護の展望/ 上野 陽子	医療の現場は日進月歩し、高度化、複雑化する保健医療社会の中で質的・量的にも効果的な看護サービスがもためられる。看護職集団が、秩序だった働きによって看護を提供していくには、組織としての管理が重要となる。今日のわが国の医療・看護の動向を把握し、効果的に役割を遂行できるような組織や体制のあり方、病院看護管理について看護部の最高責任者の立場から現状の問題を考察し、看護実践の場における看護管理のあり方を実際を通して学習する。
在宅看護実習/ 中田 芳子	在宅療養者とその家族の多様性と個別性を理解し、看護の役割と他職種との連携について学習する。また、外来看護の役割と特徴を理解し、施設内看護と在宅看護の継続や相互の連携について学習する。
精神看護学実習 ／瀧澤 直子	精神保健上の問題を抱える対象が、その人らしくその問題解決ができるように関わり、その過程の中で生じる対象の反応や自己の抱いた感情を整理しながら精神看護の機能について学ぶ。
成人看護学実習 Ⅰ／丹澤 洋子	成人看護学実習は、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱから構成されている。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、対象の発達段階・発達課題、健康レベル、診断・治療を踏まえ、その対象に応じた看護過程の展開を通して、成人看護の特徴を学習することである。これを前提として、本科目は、成人期で手術を受ける対象やクリティカルな状態にある対象に応じた看護を通して、既習の知識・技術・態度の統合・向上を図る。
成人看護学実習 Ⅱ／中谷 啓子	成人看護学実習は、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱから構成されている。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、対象の発達段階・発達課題、健康レベル、診断・治療を踏まえ、その対象に応じた看護過程の展開を通して、成人看護の特徴を学習することである。これを前提とし、本科目は、成人期で慢性的な疾患を持つ対象に必要な看護を通して、既習の知識・技術・態度の統合、向上を図る。

<p>老年看護学実習 ／横島 啓子</p>	<p>老年期にある対象の理解と自立した生活を支援するための看護の役割を理解する。介護老人福祉施設実習では、介護福祉施設における高齢者の特徴と高齢者を支援する職種間の協働・連携について理解する。さらに、療養病院実習では、介護療養型医療施設、回復期リハビリテーション病棟、療養病床等において、高齢者の特徴と療養状況に応じた看護の実際から、看護の役割を理解するとともに、ソーシャルサポートシステムを理解する。また、高齢者の生活の場を通して、QOLを高める援助を実践する。</p>
<p>小児看護学実習 ／今瀬 繁子</p>	<p>小児の健康問題を総合的に判断し、健全な育成をめざして小児及び家族に対して個別的な看護が実践できる基礎的能力を養う。①健康を傷害された小児の入院生活場面から、病気及び入院が成長・発達に及ぼす影響を考える。②疾病の経過に沿って必要な援助を考え実践できる。③母子相互のニーズを把握し、家族参加の必要性を認識する。④小児保健医療チームにおける看護職の役割と責任を理解し、に協力できる能力を身につける。</p>
<p>母性看護学実習 ／望月 好子</p>	<p>「周産期（周生期）にある対象の理解、個々の対象に適した看護過程の展開、母性看護に必要な知識・技術・態度の学習、母性を取りまく保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任についての認識および生命の尊厳や母性について自己の考えを深める」ことを目標に、看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進していくために、必要な知識・技術・態度を学習する。</p>